

阿蘇中岳2016年10月8日噴火の火山灰分布調査

2016年10月11日

国立研究開発法人防災科学技術研究所火山研究推進センター

10月9日に防災科研が実施した調査では、中岳火口の北側～北東側の地域で火山灰や火山礫の堆積が確認された(第1図)。しかし10月8日夜の激しい雨によりかなりの火山灰が既に再堆積・流失しており、正確な分布や降灰堆積量は求めることが困難であった。いくつかの地点での残存堆積物の測定や定性的な路上観察によると、火口から約6.5km離れた阿蘇市宮地駅周辺で2500g/m²以上、12~14km程離れた北東カルデラ縁外側で数百g/m²以上の堆積があったとみられ、降灰の堆積分布主軸は中岳火口から北東の阿蘇市宮地駅付近を通り産山村南部へ抜ける位置にあったと推測される。

粒子の大きさ分布は堆積分布主軸よりも南側に最大軸があり、火口から4~5km離れた阿蘇青少年交流の家周辺で長径5cmを超える大きな火山礫が存在した。約8km離れた坂梨付近で約3cm、火口から約13km離れた道の駅波野付近では約2cmの大きさの火山礫があった。

以上の結果は今後の精査により修正されることがある。また、各機関が調査した結果と統合されて噴出量・噴火規模の推定等に利用される予定である。

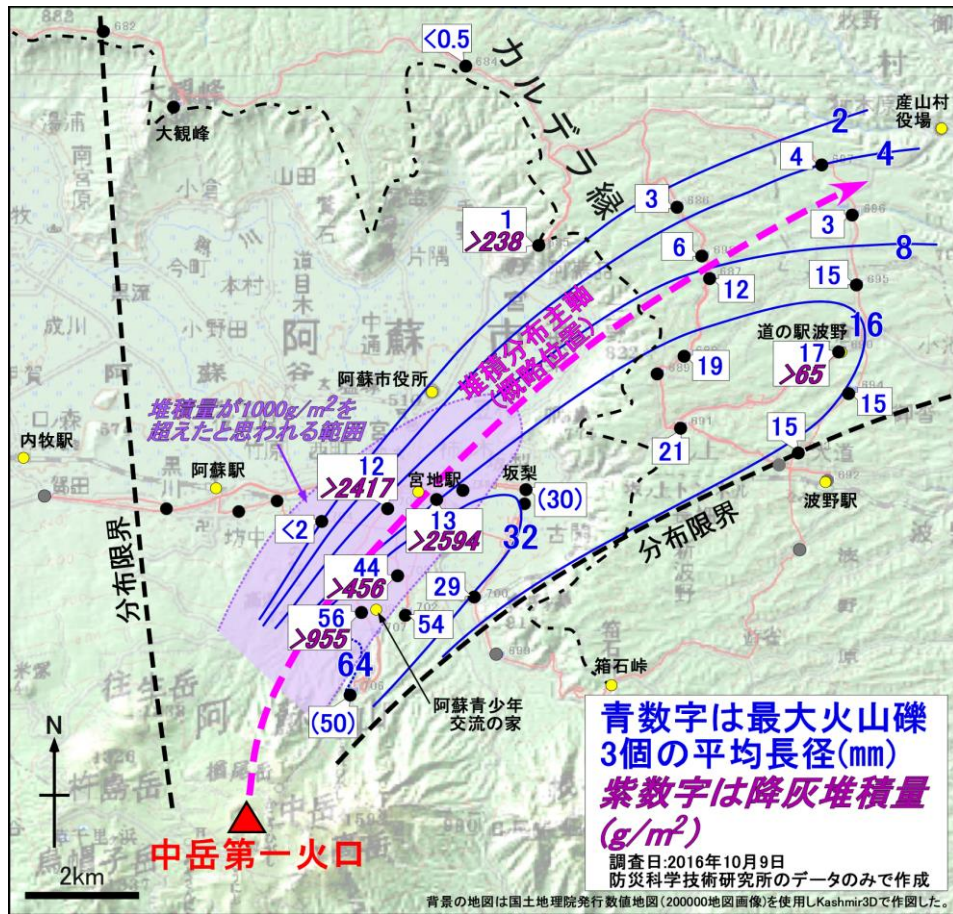


図1:堆積量・粒径サイズ分布図(暫定版)。



図2:阿蘇青少年交流の家付近の状況。



図3:阿蘇青少年交流の家付近の堆積状況。



図4:阿蘇青少年交流の家西方の火山礫。



図5:宮地駅南西方のアゼリア 21 付近の状況。

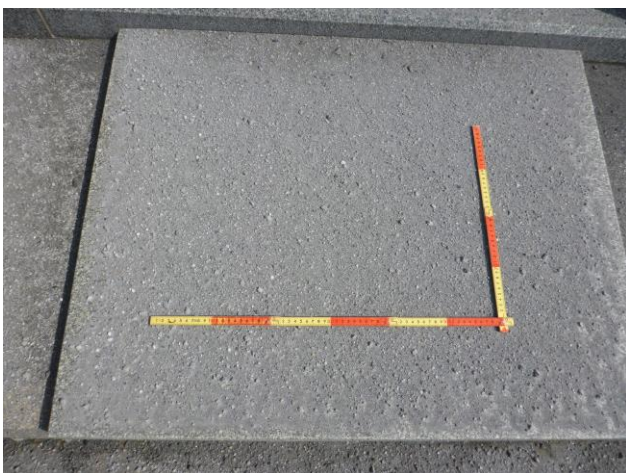


図6:宮地駅東方の堆積状況(2594g/m² 残存)。

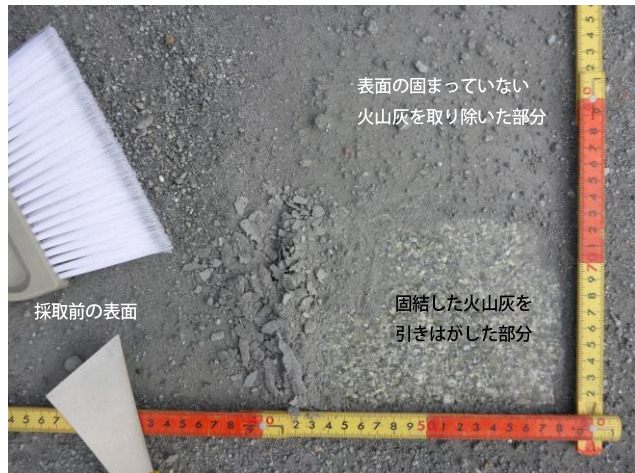


図7:図6と同じ地点。堆積物の下部は固結して張り付いている。

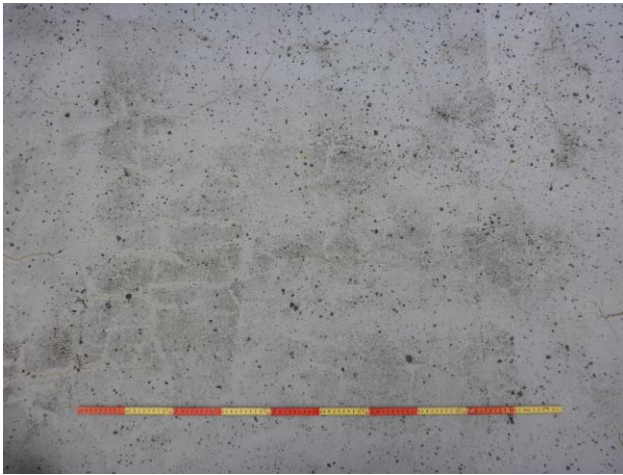


図8:道の駅波野の堆積状況(65g/m²残存)。従業員談話によると降灰直後も細かい灰の量は少なかったらしい。



図9:道の駅波野の火山礫。



図10:火口から北東に約13km離れたミルクロードの状況。細粒な火山灰は降雨で移動し窪地などに集まって残存している。



図11:火口から北に14km離れた大観峰西方ミルクロード沿い。路面などにほぼ火山灰はないが、柵杭の頂部に細粒火山灰がごく微量付着する。